

2011-08-03

講義 (5)「モデルサービスの企画意図と技術設計」

ディスカバリ・サービスについて

－九州大学の事例ほか－

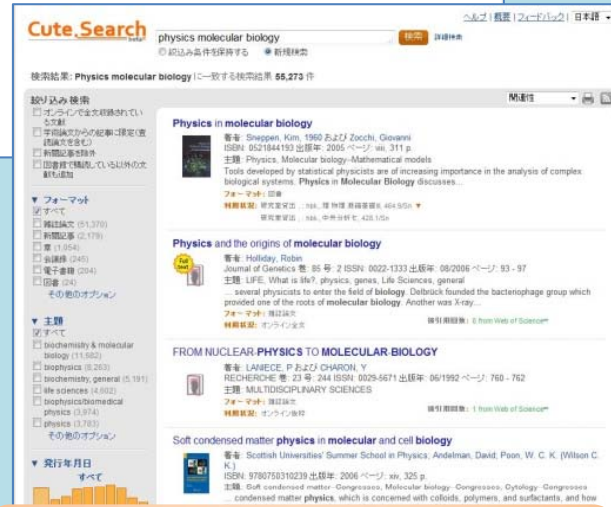
国立情報学研究所 学術ポータル担当者研修 in 名古屋

九州大学情報システム部 情報基盤グループ 片岡 真

九州大学のディスカバリ・サービス

グローバル・ディスカバリ (Cute.Search)

Cute_Search



検索範囲

- グローバル・コンテンツ (5億件以上)
出版社の論文、新聞記事、会議録
文献データベースの論文情報
オープンアクセス文献
- 九大カタログ (Cute.Catalog) のデータ

システム

- Summon (Serials Solutions)

九大カタログ (Cute.Catalog)



検索範囲

- 九大所蔵資料 (400万冊)
- 九大からアクセスできる
電子ジャーナル (51,000種)
電子ブック (53,000冊)
- 機関リポジトリ (QIR) 登録資料 (16,000件)
- 九大研究者等の論文情報 (一部)
- デジタルコレクション (予定)

システム

- eXtensible Catalog (オープンソース)



リンクリゾルバ



電子ジャーナル・ブック 提供サイト



文献管理ツール

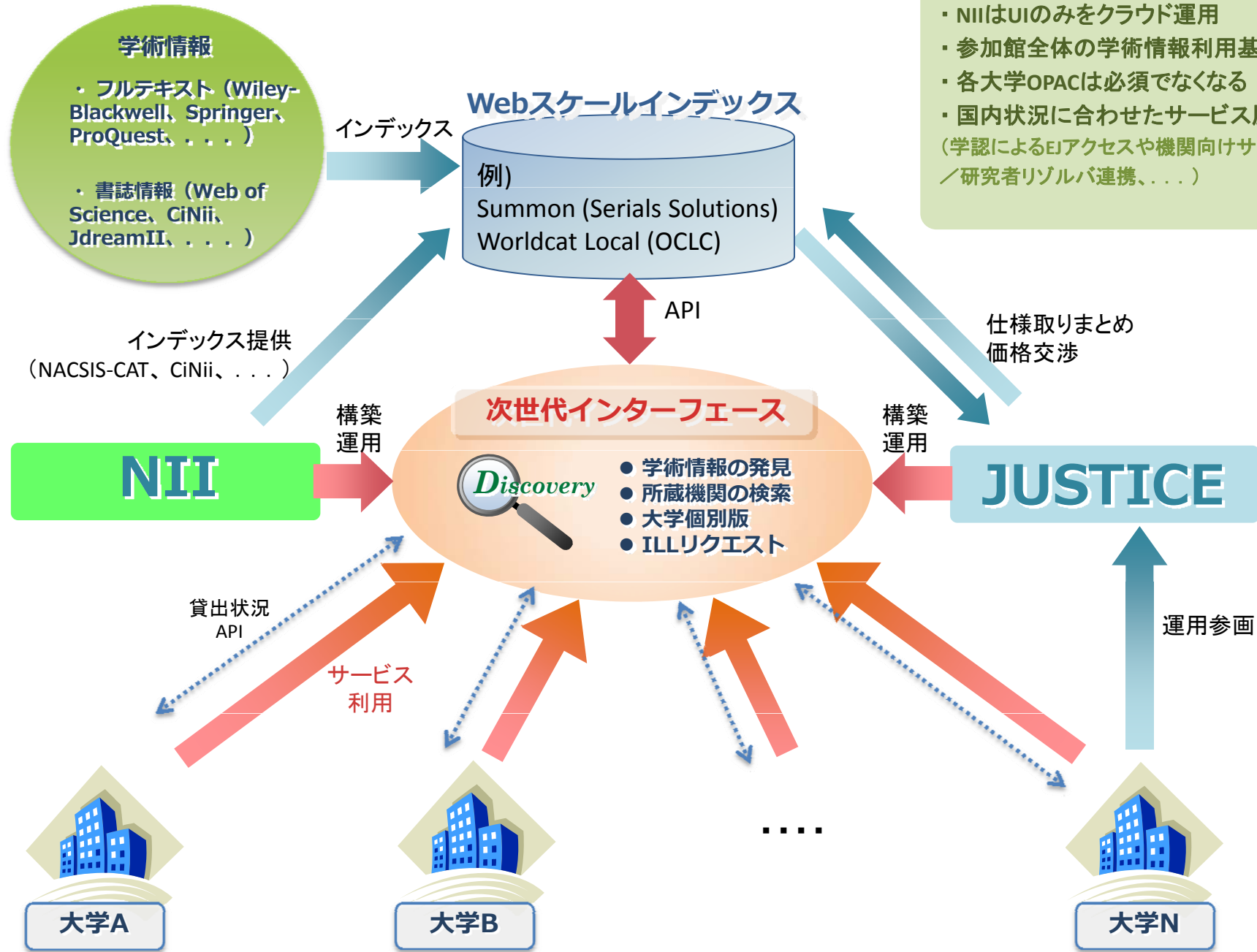


被引用文献情報

Q&A

- なぜディスカバリ・サービス？
 - 電子コンテンツを含む多様なリソースへのアクセスを整備
- 重視したこと
 - 最近のWeb動向に沿うこと
 - 持続可能な発展ができること
- グローバル／ローカル両方のディスカバリ・サービスが必要？！
 - Cute.Search： 広く学習・研究活動に資する
 - Cute.Catalog： 所蔵資料を有効に活用したり、学内研究成果の価値を高める
- 苦労したこと
 - Cute.Search： 日本語インターフェース、日本語データベースの追加（進行中・・・）
 - Cute.Catalog： スキーマ、マッピング、主題ファセット、概要・目次データ収集、ソースコードとの格闘
 - 海外担当者との連絡・調整
- 大きな大学／機関でないと実現できない？
 - 個別カスタマイズの削減、他機関と連携した業者への提案
 - 国レベルでの整備
 - 仕様の標準化、クラウド利用、各大学からも声を

国レベルでのディスカバリ・サービス（一つの案）



ポイント

- ・ NIIはUIのみをクラウド運用
- ・ 参加館全体の学術情報利用基盤
- ・ 各大学OPACは必須でなくなる
- ・ 国内状況に合わせたサービス展開 (学認によるEJアクセスや機関向けサービス / 研究者リゾルバ連携、...)

国レベルでの学術情報流通基盤（一つの案）

ポイント

- ・参加館全体の電子リソースを含む学術情報基盤
- ・各大学における電子リソースのシステム整備は不要
- ・コンソーシアムのメリットを最大限に活かせる

NII
JUSTICE

Webスケールインデックス
例)
Summon (Serials Solutions)
Worldcat Local (OCLC)



次世代インターフェース

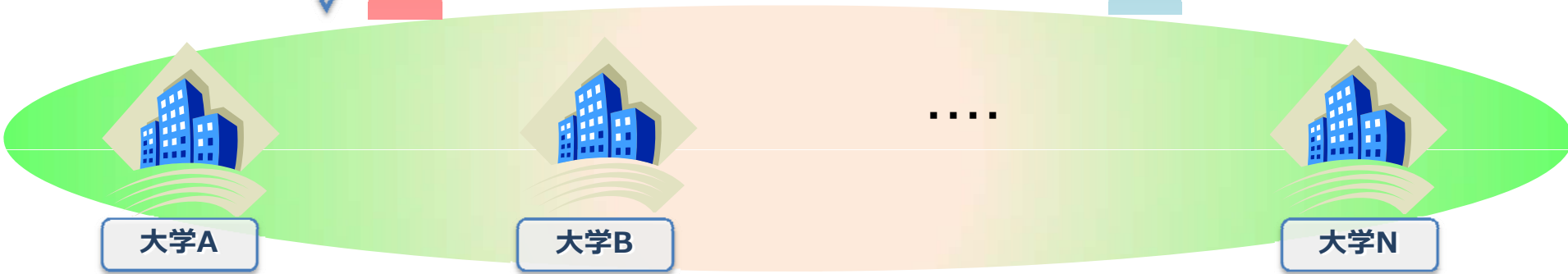
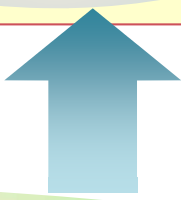


- 学術情報の発見
- 所蔵機関の検索
- 大学個別版
- ILLリクエスト

電子リソースマネジメント

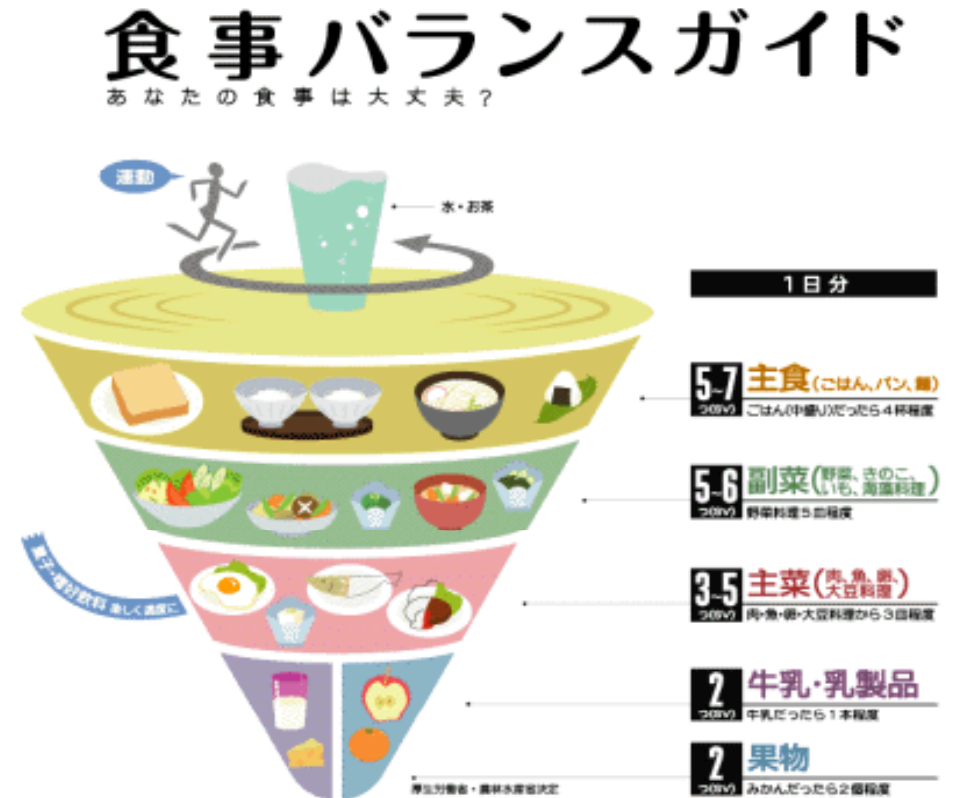
ERM
システム

- 統一的な電子リソース管理 (グローバルナレッジベース)
- 契約状況/利用統計の把握 (交渉力の強化)
- ライセンス情報の共有



図書館システムバランスガイド

- 広がる選択肢
 - － 商用 / オープンソース / 自作
 - － パーツの組み合わせも容易に
 - APIを利用した機能追加
 - 外部インデックスの統合
- 必要なものを選ぶ力
 - － 全体的な視野
 - － ユーザ目線
 - － 変更する柔軟性
- 図書館の価値とは？
 - － 冊子体の提供だけ？
 - － 大学の教育・研究支援
 - － 図書館間の連携



参考：食事バランスガイド / 農林水産省

参考

- 図書館の検索インターフェースとユーザ支援技術. 片岡真ほか. メディア教育研究. 2011, vol. 7, no. 2, p. S19-S31.
- 九州大学附属図書館におけるCute.Catalogのデザインと開発: OPACからディスカバリ・インターフェースへ. 兵藤健志ほか. 情報管理. 2010, vol. 53, no. 6, p. 311-326 (J-STAGE).
- ディスカバリ・インターフェース(次世代OPAC)の実装と今後の展望. 片岡 真. カレントアウェアネス. 2010, no. 305. p. 11-15.